参考資料１　提言案に対する会員からの意見と対応

提言案に対して、環境情報科学センターHP上で会員からの意見を公募（7月9日～8月15日）した結果、以下の15件の意見が提出された。これに対して、対応に示すとおり、提言案の修正等を行った。

2022.2.15

No.	2021.6　公表版　ページ等			コメント	対応
	ページ（※１）	行(※１)	章節名（※１）		
1				全体を通して「研究」の文字が多く、これからの**研究テーマを羅列して課題を抽出しただけ**との印象です。「提言」としていますが、環境科学の事柄について関係機関等に実現を望む意思表示をするもののようにみえ「要望」ではないか。「提言」は研究した結果について実現を望む意見等を発表するものですが、本文からは研究の成果はこれからのものが多いようで、「提言」に至っていないのではないでしょうか。	○以下の下線のとおり修文し、学会としての研究提言であることを明確にした。 はじめに （第2パラ） ・記念事業の一環として、当面の環境政策の柱となる「地域循環共生圏」を取り上げ、学会として その実現に向けた研究の推進に関する提言（以下、「提言」という。）を行うこととした。 （第3パラ） ・最終的に提言として取りまとめたものであり、今後の地域循環共生圏の研究の推進に活用されることを期待する。
2	3	1パラ、L1	1.	「地域循環共生圏」の主題は良いのですが、**「自立分散型社会の構築」**という用語が急にでてきており、研究テーマの１つであれば問題ありませんが、主題のサブタイトル的に使われており違和感があります。	○自立分散型社会の定義については、必ずしも明確ではないことから、3.1　おわりに　において以下のとおり、注として自立分散型の社会の姿の明確化等が有用であることを記載した。 (第２パラ) ・・・地域循環共生圏のコンセプトについても、必ずしも統一的な理解があるわけではないため、今後、研究成果の蓄積によるステークホルダーへの普及啓発に加え、体系的な調査・研究によって概念の明確化を図ることが長期的な視点で取組むに当たって有用である(注）。 注：同じく、自立分散型の社会についてもその姿の明確化や評価の方法の検討が有用である。
3	5		2.　2.2 視点②	日本で約290万人程暮らす外国人の人たちがどのように地域循環共生圏に関わっていくのか、今後、日本の経済・社会活動の中での役割が大きなる日本で暮らす外国人の視点というものを考えていく必要があると思います。	○2.2　視点②　表　6　「住民意識の向上」について、注を以下のとおり加えた。 ステークホルダーとしての外国人住民の参加、意識向上に留意することが、特に外国人住民が多い地域等については重要である。
4	9、13、16		3.　CEISが取り組むべき研究課題 （１） （２）等	地域循環共生圏の意義として、その確立が**大量生産大量消費の抑制につながり得る**という点を加えられないでしょうか。（例えば3.2具体的な研究課題（１）（２）において）	○　3.2　（１）　２．システムの自立性とシステムの挙動 第6パラグラフのあとに以下を挿入した。 例えば、現在の大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済システムは、資源の観点からは採取と再生産の量及び速度が噛み合わない「漏出」型のシステムであり、生産／消費の観点からは必要性（需要）に基づいた生産ではなく、消費自体を増やすことを目的とした「加速」型システムであり、さらに廃棄の観点からは循環にまわる量が増えてきているとはいえ、無視できない量の最終処分を必要とする「蓄積」型システムとして捉えることができる。逆に言えば、システムの挙動に着目することで、従来型の大量生産・大量消費・大量廃棄という直線的なプロセスとは異なる持続可能な循環型の経済システムのデザインを提示しやすくなる。
5		3.	3.	研究課題に６つのカテゴリーを設定していますが、現在の社会は地球規模で動いており、これに対応した**グローバルなテーマ（海外にも対応できるテーマ）によるカテゴリーを設定**すべきであり、また**コロナ後の視点に関するテーマ（福祉など）**も加えてはどうでしょうか。	○　2.2　視点①　に　以下を欄外に注として追加した。 本提言は、持続可能な社会に向けてのグローバルな動き等について、地域循環共生圏の視点から見て対応していくための研究の推進を図るものであり、これに該当しないようなグローバルな課題については、必ずしも提言に含まれるものではない。

No.	ページ（※１）	行(※１)	章節名（※１）	コメント	対応
6		3.	3.	横軸はたくさんありますが、横軸を束ねる縦軸となるものが、弱いと思いました。「地域循環共生圏」・「持続可能な自立分散型社会の構築」の概念的掘り下げがもっとあってよいと思いました。	○　3.1　おわりに　において、地域循環共生圏の概念の明確化を図ることが長期点で取組に当たって有用であることを指摘しており、さらに自立分散型社会も同様にその姿の明確化等も同様であることを中で追記した。 (第２パラ) 地域循環共生圏のコンセプトについても、必ずしも統一的な理解があるわけではないため、今後、研究成果の蓄積によるステークホルダーへの普及啓発に加え、体系的な調査・研究によって概念の明確化を図ることが長期的な視点で取組むに当たって有用である(注）。 注：同じく、自立分散型の社会についてもその姿の明確化や評価の方法の検討が有用である。
7		3.	2.2　基本的視点または3.	持続可能な発展を具現化するうえで抜きにすることができない、**社会的包摂（弱者への配慮、格差の是正等）**、**リスクへの備え（気候変動適応を含む）**といった視点での研究が必要である。	指摘を踏まえて、以下の2点を修正した。 ○2.2　視点①　表　1　「統合的アプローチ」の欄で、以下のとおり記述を修正した。 地球環境問題の深刻さを考慮すると、持続可能な社会・地域の達成に社会、経済、環境面から取組む統合的なアプローチが重要。 この際、SDGsの「誰一人取り残さない」で示されているように、社会的弱者や格差の是正等を含む社会的包摂性が重要。 ○2.2　視点①　表　2　「多様なリスク評価」　の欄で、以下のとおり記述を修正した。 ・・・多様なリスクについて不確実性を考慮しながら評価を行い、バランスよく低減することが必要
8	9，35	3.	3.1，3. 2	**コロナ禍**の中で多くの企業でテレワークが実施され、働き方に変化がもたらされています。これにより首都圏集中から**地方分散の流れ**が生まれています。アフターコロナで定着するか見極める必要があります。**DX（デジタルトランスフォーメーション）**は創意工夫により**地域内は勿論のこと、国内外向け地域の環境資源を活用したビジネス発信**を高めることが可能です。	○指摘を踏まえて　3.2　(12)　1．に以下のとおり、第2パラとして記述を加えた。 情報通信技術による広域の需給マッチングが、地域の環境資源によるビジネス発信、有効活用につながっている事例[7),8)]もある。例えば、農産物・水産物の産地直送のしくみや、フードシェアリングサービス である。いずれも、通常では直接つながることの難しい生産者と消費者を、Web上の電子商取引によってマッチングさせることで、地域活性化や食品ロスの削減に貢献している。
9				関連する情報提供 私が住んでいる日野市では、「第３次環境基本計画」を今年度作成することになっています。市役所（環境保全課）ではその原案を市民団体などの意見を加えて編纂中ですが、これまでの第２次環境基本計画と大差がないものになりそうです。CEISの「地域循環共生圏」の考え方を取り入れた新たな内容になるとよいと考えていますが、環境基本計画に加えられるものでしょうか。もし、取り入れられるようなら、どのような内容にすればよいかを急ぎ市役所に説明して理解を得る必要があります（この場合、CEISで直接コンタクトを取って説明してください）。	○本提言の趣旨は、地域循環共生圏の実現のための研究課題の明確化、研究の促進であり、行政への働きかけは本提言案の主旨とは異なる。
10	6	表 6.	2.2	6.住民意識の向上 「意識の啓発」の中で，**対話型の住民参加のまちづくりを例示**してもいいのではないしょうか。	○2.2　視点②　表　6．「住民意識の向上」　で 以下を追加した。 ・・・このため、たとえば、対話型の住民参加のまちづくり等啓発の方法等に関する研究も重要である　。

No.	ページ（※１）	行(※１)	章節名（※１）	コメント	対応
11	13	3.2	3.2	3.2　「具体的な研究の課題」→「具体的な研究課題」ではないでしょうか。	○　指摘を踏まえて、3.2を「研究課題：具体例」に修正した。 なお、本文、脚注に以下を追加した。 ・本文　　課題の概説を基に、CEISとして対応するべきと考える具体的な研究課題を以下に示す。 ・注　　本文で述べたとおり、ここで示す具体的な研究課題は、CEISの立場から見て重要と考えられる具体的な研究課題であり、必ずしも網羅的、包括的に研究課題を提示しているものではない。
12	15	(1)　4. P４L１	3.2　（１）	地域循環共生圏への批判的検討 **「それによって起こりうる弊害」**の「それ」の指すところが分からなかったのですが、「それら資源を地域ごとに分断して捉えることによる弊害」といった意味でしょうか？	○　指摘を踏まえて3.2（１）４．第３パラを以下のとおり修正した。 あらゆるものを「資源」として捉える発想が、地域循環共生圏の根底にあることを自覚的に認識し、あらゆるものを「資源」として捉えることよって起こりうる研究及び政策上の陥穽についても客観的な視点から分析することが求められるであろう。
13	22	(3)　3. L15	3.2　（３）	（地域エネルギーは、）地域の経済活性化に貢献していることが推察される一方で，地元との調整が不足することによるトラブルが各地で発生しており，地域からは**中長期的な視点に立って持続可能な地域づくりを共に目指す事業者が求められている**趣旨を追加してはどうでしょうか。	○　指摘を踏まえて、3.2　（５）　３．第3パラに以下を追加した(※）。 ただし、地元との調整が不足することによるトラブルも各地で発生しており、地域からは中長期的な視点に立って持続可能な地域づくりを共に目指す事業者が求められている。 ※：研究課題：具体例　について、順番を変更して、従来の（３）は（５）となった。
14	34	(7)　2.	3.2　（７）	2.「消費拡大を目指した産学官連携による活動」→**「対象産品の消費拡大を目指した産官学連携による活動」**等の方が意図が伝わりやすいのではないでしょうか。	○指摘を踏まえて、3.2(10)　2.　を以下のとおり修正した(※）。 対象産品の消費拡大を目指した産官学連携による活動 ※： ※：研究課題：具体例　について、順番を変更て、従来の（７）は（10）となった。
15	38	（９）	3.2　（９）	幅広い視点を含めた包括的な素晴らしい提言にまとまっていると思います。 専門でもないため具体的なコメントはできませんが、3．2の「(9)～Society5.0に必要な総合学としての環境学～」も今後の社会に向けてのまさに注視される内容です。冒頭近くで「フィジカル環境とサイバー環境が融合する世界」とも表現されてますが、その後は（**本文でも明記もされてますが）サイバー環境にのみ特化した文章なのが残念**です。もちろん今どのように書かれるべきかはかなり難しいとは思いますが、私にもアイデアはありませが、ご担当の先生方ならひと工夫できるでしょうか。	○ここではSociety5.0と環境学の関係について注目して記述しており、論点を明確にするために、修正は行わない。 ※：研究課題：具体例　について、順番を変更て、従来の（９）は（13）となった。

※１：ページ、行、章節名は、コメント公募時のものである。
P：パラグラフ　L：行目